

## 海外シリーズ⑩

# テキサスに早稲田を見た

山下 明 泰

### 1. はじめに

テキサス大学オースチン校へ来て約1年になる。大学全体の印象、化学系学科の概要とともに私の所属する学科を紹介したい。

### 2. テキサス大学オースチン校

テキサス大学オースチン校は、11あるテキサス大学システムの本校で、1883年に設立された。州内最古の州立の総合大学である。オースチン市はテキサス州の州都で、ダラスからは車で南に4時間、ヒューストンからは東に3時間のところに位置する。大学のシンボルで、27階建てのMain Building (写真)は、今年建設50周年を向かえた。1966年、ひとりの学生がこのビルの屋上からライフルを乱射し、45名の死傷者をだした事件は映画にもなっているので、ご存じの方もおられよう。この8階にはアジア図書館があり、日本語の辞書(国語、英和)、百科事典や小説はもちろん、読売新聞を読むこともできる。

かつては全米2位になったこともあるフットボールは、今ではリーグ3位程度の実力である。辛うじて野球(全米3位)やテニス(同6位)でスポーツテキサスの面目を保っているが、最近のひ弱さは否めない。但し、女子のスポーツは総合成績で全米No.1である。

開発を急ぐ必要があったテキサス州のこと、大学も未だに実学を中心とした理工系学科が強い。中でも物理学科、化学科からはノーベル賞授賞者を排出している。化学工学も全米14位にランクされており、独走的なテーマを評価されているfacultyも少なくない。

### 3. Biomedical Engineering Program

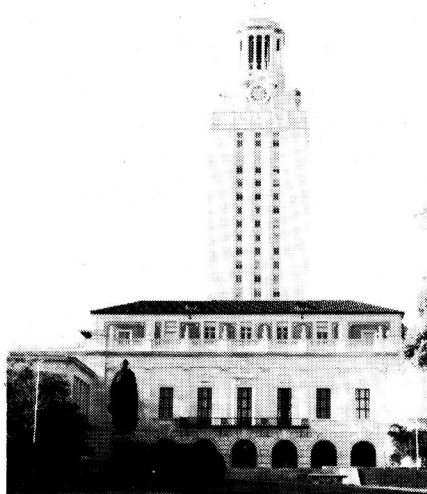
私が所属する学科は大学院過程にのみ設置され

医療法人社団善仁会研究部勤務  
応用化学科酒井研究室個人助手  
現在テキサス大学オースチン校へ留学中  
(昭和55年応用化学科卒・新制30回)

ており、修士を取得した学生の多くが医学部に進学している。研究施設は1,400m<sup>2</sup>のフロアに12の実験室を有し、別棟には動物舎もある。ミニコンピュータは、全米2位というスーパーコンピュータに接続されており、自由に使うことができる。これらの施設を利用して、74名の学生と25名のFaculty(中6名は医師)が、極めて広範な研究テーマに取り組んでいる。私が指導を受けているR. P. Popovich 教授は、人工腎臓を用いない腎不全患者の治療法(CAPD)の考案者である。CAPDは現在欧米諸国を中心に急速に広がりつつあり、日本でも既に1,000名が加療中である。

### 4. おわりに

学生数5万人、医学部を持たない総合大学で、理工学部が高い評価を受けており、かつてはスポーツが大変強かった、といえば日本では早稲田であるが、全く同じ文章をテキサス大学オースチン校に当てはめることができる。しかも設立が早稲田の1年後、とくれば似てないところを搜した方が早いくらいである。最近日本からの留学生も増え、いよいよ「アメリカの早稲田」になりつつあるように思うのは、単なる懐かしさからだけではなさそうである。ふたつの母校を、同じように愛することができる私は大変幸せである。



大学のシンボルMain Building  
かつて大惨事の舞台となったこともある。